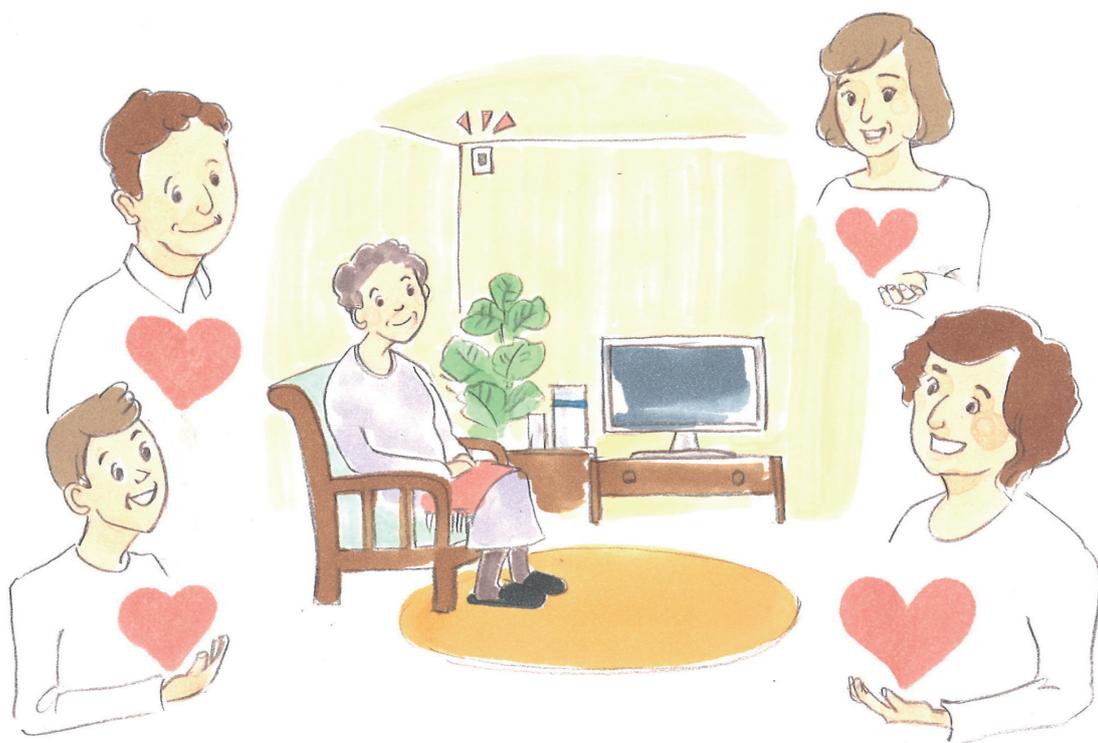


安心して住み続けられる

高齢社会におけるサステナブル居住を実現させるために

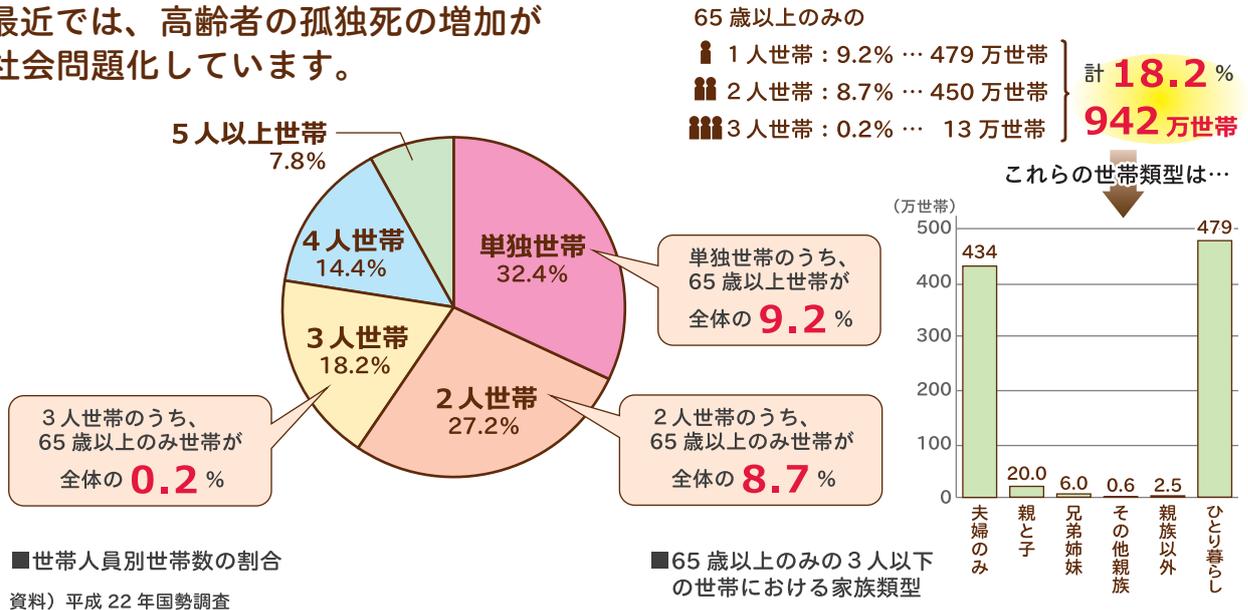


高齢者の安心な暮らしを支える

見守りサービスニーズ調査報告
住宅部品等のご紹介

見守りが必要な高齢者が増加しています！

- ！ひとり暮らしの高齢者世帯は 479 万世帯で、総世帯数の約 1 割を占めています。
- ！65 歳以上のみの世帯は 942 万世帯で、総世帯数の約 2 割を占めています。
- ！最近では、高齢者の孤独死の増加が社会問題化しています。



高齢社会の進展に伴い、高齢者を対象とした「緊急通報サービス」や「安否確認サービス」等の多様な見守りサービス・機器等が民間事業者により提供されています。

緊急通報

に関するサービス・機器

住戸に設置された緊急通報ボタンやペンダント型のボタンを高齢者自らが押すことにより、発報されます。



安否確認

に関するサービス・機器

安否確認のためのセンサー等により、高齢者の異変が察知された場合に、発報されます。

異変を察知する機器としては、ポットやテレビ、携帯電話、センサー（人感センサー、水センサー、扉センサー、照明センサー、ガス使用量、水道使用量など）等があります。
また、新聞や飲料の配達時に人が確認するサービスもあります。



- この冊子では、高齢者の見守りサービスに関するニーズ調査報告と、高齢者の暮らしを支える住宅部品等を紹介しています。
- 家庭で異変が起こった場合の備えとしての「見守りサービス」とともに、日々の安心な暮らしを支える住宅部品による「住まいの環境改善」を行うことにより、一層、高齢期を迎えても安心に住み続けられる住まいとなるといえます。



緊急通報・安否確認システムによる 高齢者の見守りサービスに関するニーズ調査報告

一般財団法人ベターリビング サステナブル居住研究センターでは、緊急通報・安否確認システムによる高齢者の見守りサービスに関するニーズ調査を実施、結果を公表しました。

見守りサービスについて、過半数の人が魅力度が高いとしていますが、サービス加入割合は5%未満に留まり、「検討も加入もしていない」が大多数となっています。加入を検討しない理由は、約半数が「時期尚早」としています。

一方で、今後の加入意向としては、過半数の人が加入に肯定的な意向を示しており、加入を検討する際には、「費用」や「駆け付けに要する時間」を重視するが6割以上となっています。

調査結果の詳細は、<http://www.cbl.or.jp/slc/info.html> に掲載されています。

① 調査概要

【調査方法】インターネット調査会社に登録しているモニターを対象にアンケート調査を実施
(調査実施機関：マイボイスコム株式会社)

【調査期間】予備調査：平成23年12月9～11日(本調査の対象者を抽出)
本調査：平成23年12月16～18日

【調査対象】次のすべての条件を満たす30～64歳までの男女
1) 65歳以上の親がいる
2) 親と同居していない
3) 親が施設に入所または病院に入院していない

【サンプル数】1,500件

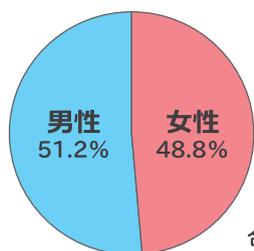
※サンプルは、国勢調査及び住宅・土地統計調査を参考に、地域別、年間収入階級別の分布が全国の実態に即するように抽出した。

【調査項目】離れて暮らす親への心配度、見守りサービスへの加入状況(現在・今後の意向)、加入しない理由(現在・今後の意向)、加入を検討する場合の重視事項・価格帯、自由記入など。

② 回答者属性

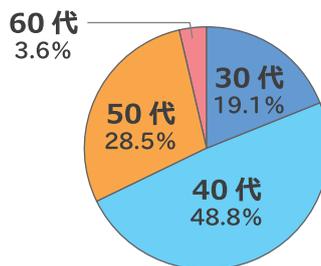
性別

●性別はあらかじめ男女のサンプル数が同程度になるよう抽出しました。



年齢

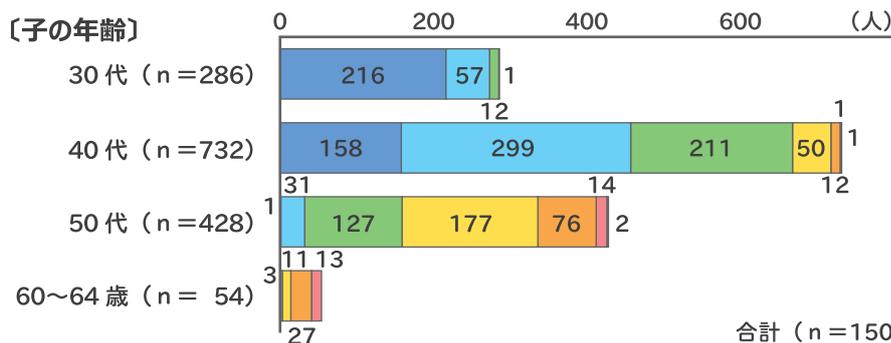
●40代が約5割を占め、次いで50代の約3割でした。



離れて暮らす親の年齢

●子の年齢が高くなるにつれて、高齢の親の割合が高くなっています。

〔子の年齢〕

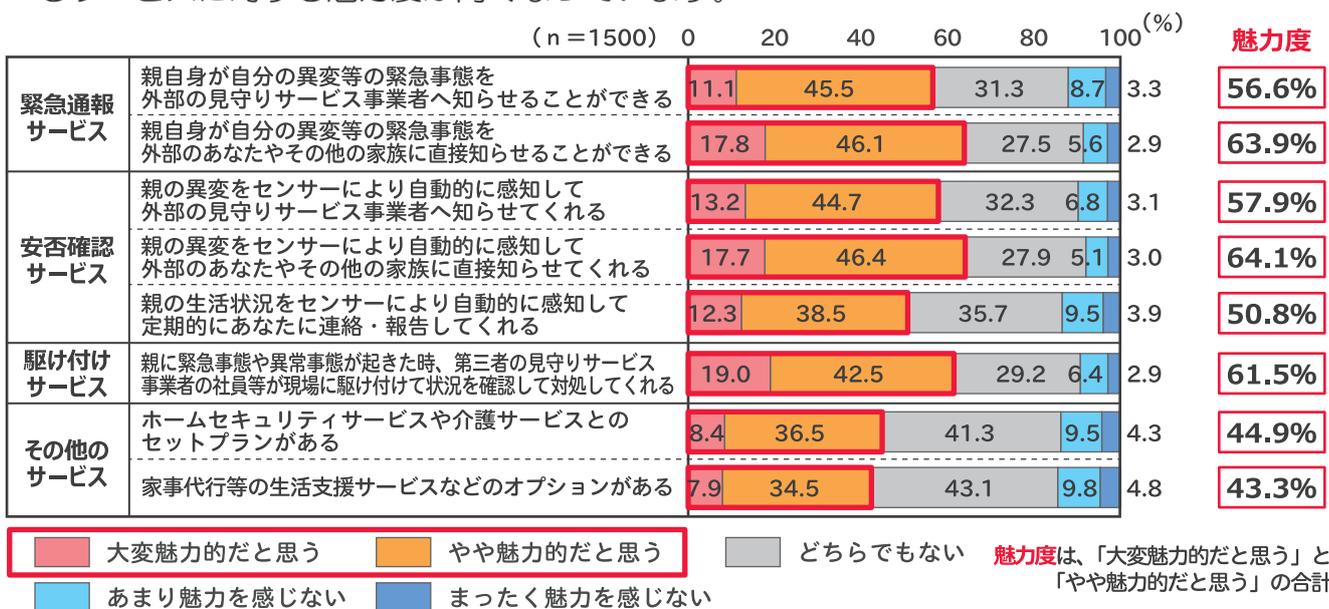


〔親の年齢〕

- 65歳以上 70歳未満
- 70歳以上 75歳未満
- 75歳以上 80歳未満
- 80歳以上 85歳未満
- 85歳以上 90歳未満
- 90歳以上 95歳未満
- 95歳以上

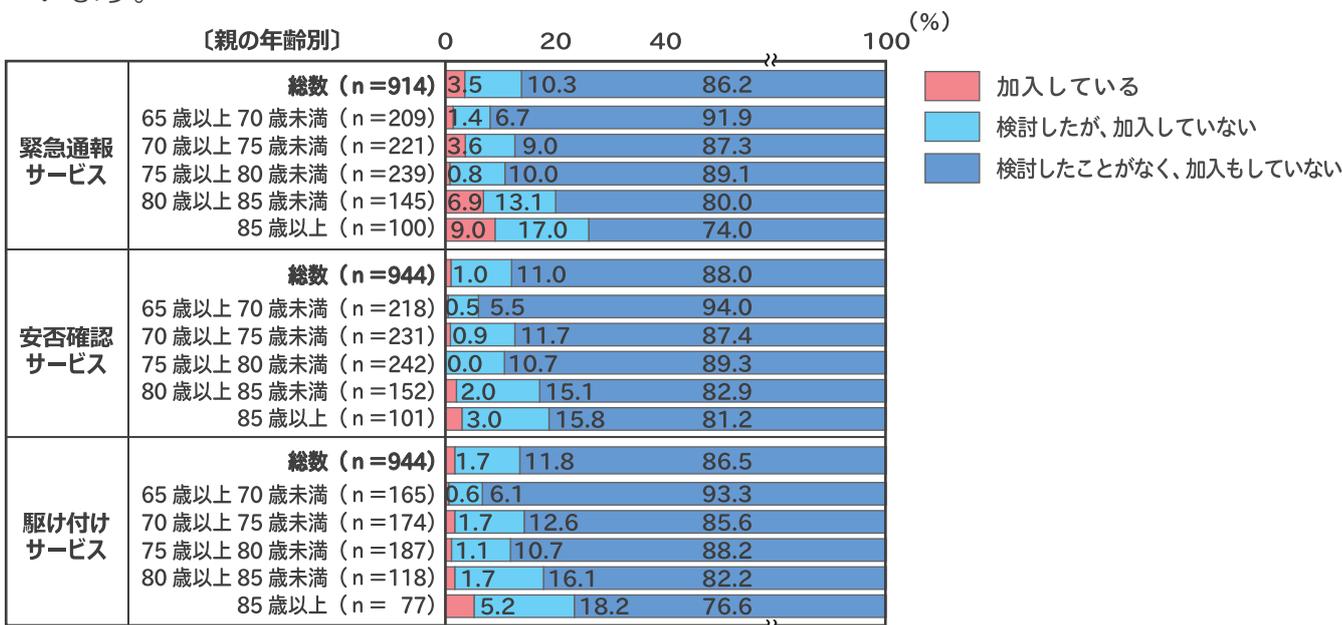
1. 見守りサービスの魅力度

- 魅力度が高い（「大変魅力的だと思う」＋「やや魅力的だと思う」）項目は、《親の異変をセンサーにより自動的に感知して外部のあなたやその他の家族に直接知らせてくれる》が64.1%で最も高く、《親自身が自分の異変等の緊急事態を外部のあなたやその他の家族に直接知らせることができる》の63.9%、《親に緊急事態や異常事態が起きた時、第三者の見守りサービス事業者の社員等が現場に駆け付けて状況を確認して対処してくれる》の61.5%と続いています。
- 総じて、見守りサービス事業者へ知らせるだけでなく、外部の家族に知らせることができるサービスに対する魅力度が高くなっています。



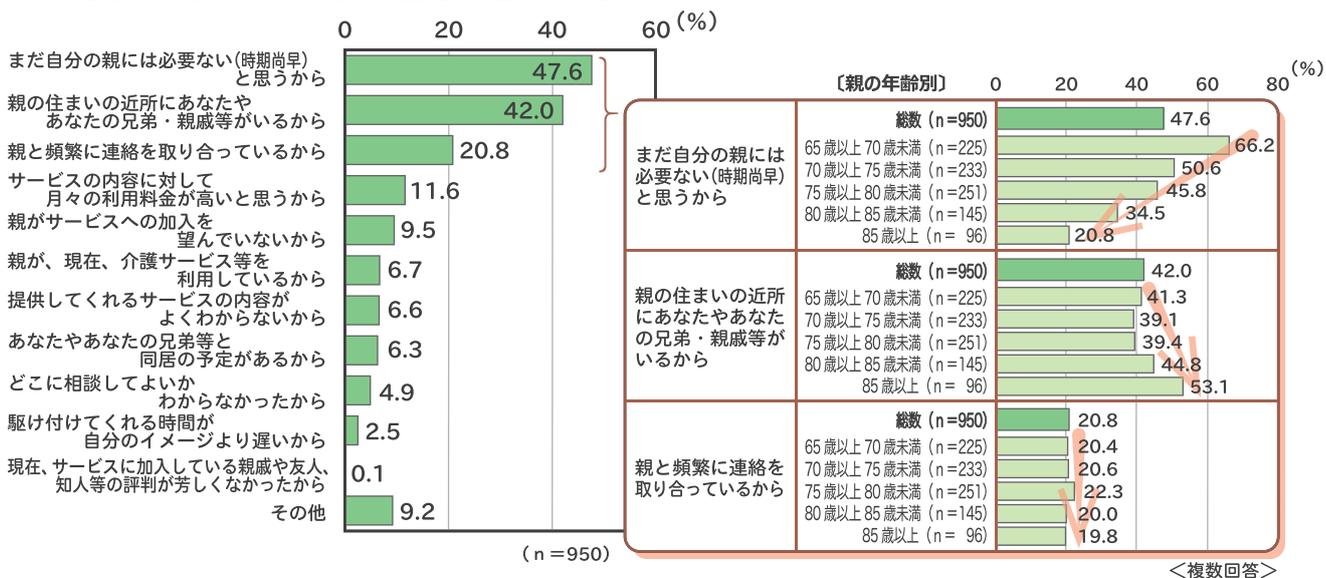
2. 見守りサービスの加入状況

- 《緊急通報サービス》に加入している割合は3.5%、《安否確認サービス》に加入している割合は1.0%、《駆け付けサービス》に加入している割合は1.7%であり、これらの見守りサービスについて「検討したことがなく、加入もしていない」が大多数を占めています。
- 見守りサービスの加入状況は、親の加齢に伴い加入または検討している割合が高くなっています。



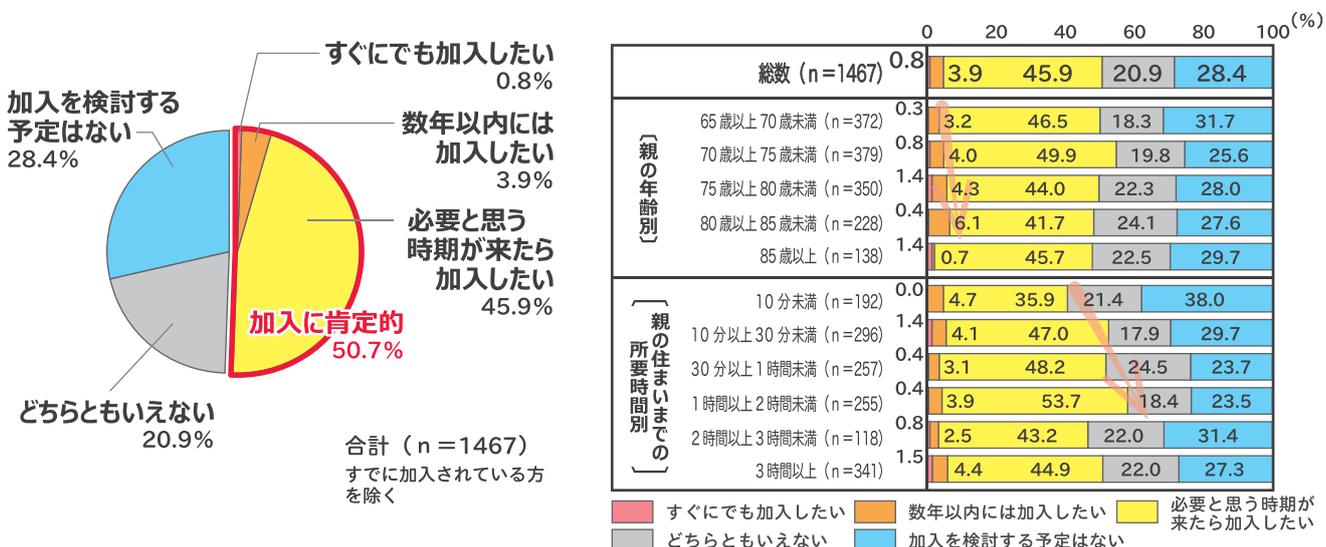
3. 見守りサービスの加入を検討しない理由

- 約半数が「まだ自分の親には必要ない(時期尚早)と思うから」と答え、次いで「親の住まいの近所にあなたやあなたの兄弟・親戚等がいるから」となっており、現時点において見守りサービスの必要性に迫られていないことを理由に挙げる方が多くなっています。
- 見守りサービスに加入していない上位3つの理由を親の年齢別にみると、「まだ自分の親に必要な(時期尚早)と思うから」は親の年齢が高くなるにつれて低くなり、「親の住まいの近所にあなたやあなたの兄弟・親戚等がいるから」は親の年齢が高くなるにつれて高くなる傾向にあり、親の加齢に伴って見守りサービスは必要と考えるが、親族等が親と同居する状況が生じていることが推測できます。一方、「親と頻繁に連絡を取り合っているから」は親の年齢による差はみられません。



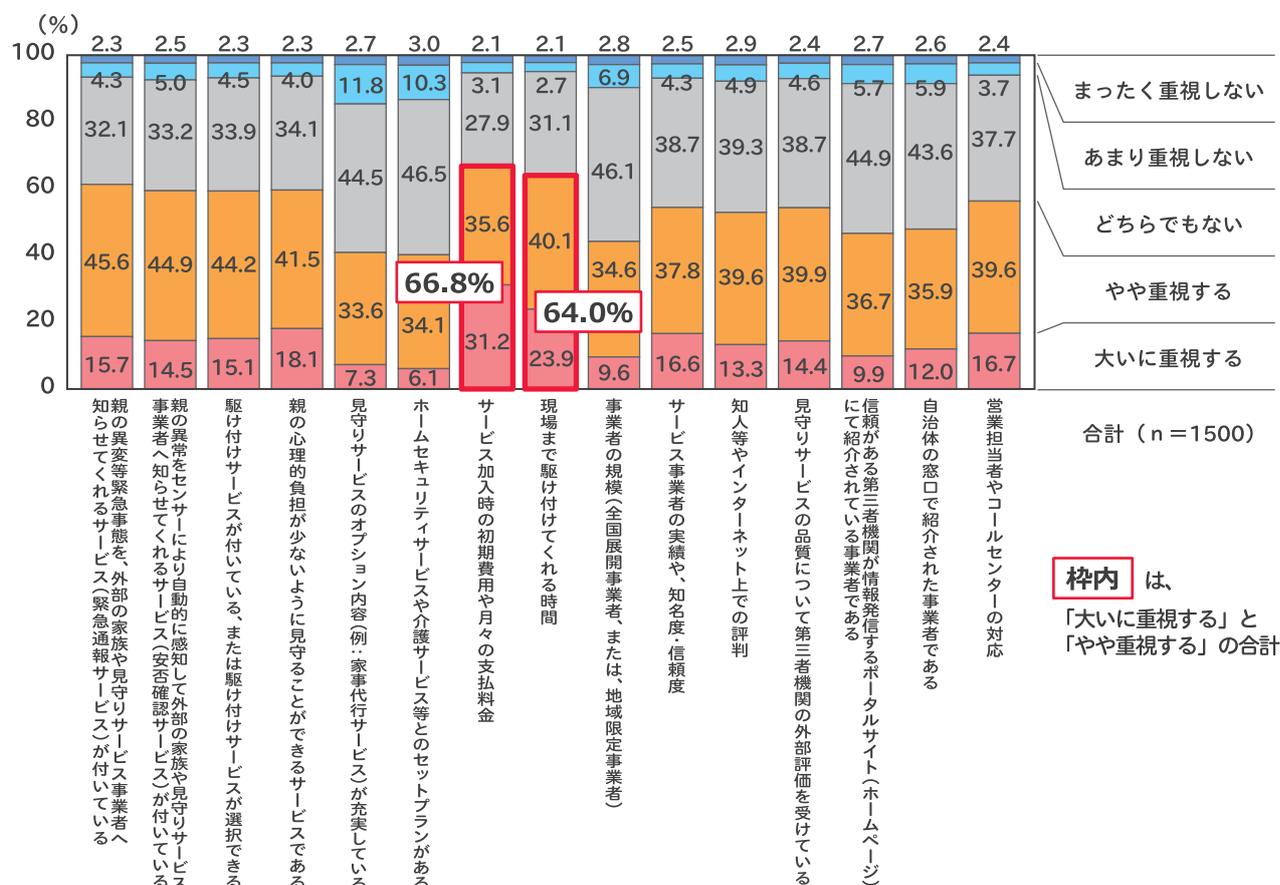
4. 見守りサービスへの今後の加入意向

- 「必要と思う時期が来たら加入したい」が45.9%で最も多く、「すぐにでも加入したい(0.8%)」と「数年以内には加入したい(3.9%)」を含めた加入に肯定的な意向を示した方が過半数となっています。
- 親の年齢別に今後の見守りサービスの加入意向をみると、親の年齢が85歳未満の場合まで、親の加齢に伴って「数年以内には加入したい」と考える方の割合が高くなっています。
- 親の居住地までの所要時間別にみると、親の居住地まで2時間未満の場合で距離が遠くなるにつれて「必要と思う時期が来たら加入したい」と考える方の割合が高くなっています。



5. 見守りサービスの加入を検討する場合の重視事項

- 見守りサービスへの加入を検討する場合の重視事項（「大いに重視する」＋「やや重視する」）は、《サービス加入時の初期費用や月々の支払料金》が66.8%で最も高く、次いで《現場まで駆け付けてくれる時間》の64.0%となっています。



《参考》 自由意見から読み取れるニーズ

- 自由記入からは、いざという時の心配と、日常生活上の心配が読み取れます。通院の支援や室温調整など、離れて暮しながらも親の日々の暮らしに寄り添いたいというニーズが見受けられます。
- 室温を管理してほしい、同居家族が不在時のみ、見守りサービスを利用したいなど、既存のサービスではカバーされていないニーズも散見されることが注目されます。

【主な意見】

- ・夜中急変したときが心配。昼間は電話で連絡をとるからよい。（60代男性、親90代前半）
- ・急に意識をなくして倒れることが心配。（50代男性、親80代前半）
- ・離れて暮らしているので、緊急の場合、連絡がとれても間に合わないことが心配。（40代男性、親70代後半）
- ・具合が悪くなくても連絡できないまま何日もたったりすることが心配。（50代女性、親80代前半）
- ・毎朝ちゃんと起きているかがわかればよい。（50代男性、親70代後半）
- ・定期的な訪問をしてもらえるとよい。（50代女性、親80代前半）
- ・親が軽い認知症を患っているため、病院に行ったかどうかを確認してくれるとよい。（40代女性、親70代前半）
- ・時間になったら窓が開く等、室温管理、室温調節できるようにしてもらえると安心。（50代女性、親80代前半）
- ・親は妹と同居しているが、妹の不在時のみ通報サービスを利用したい。（50代男性、親80代前半）

高齢者の安心な暮らしを支える住宅部品等のご紹介

- 高齢化の進展、高齢者の小規模世帯化等を背景として、見守りサービスのニーズが高まり、新たな機器・システムの開発・提供が進んでいます。
- 加齢による高齢者の状態の変化に応じて、サービス・機器を選択することが重要です。

■ 離れて暮らす高齢者を見守る 安否確認システム **みまも〜る**

見守られる方の
ガスメーターから
ガス利用状況を送信

見守る方が
携帯電話やパソコンで
ガス利用状況を確認



ガス利用状況お知らせサービス
提供：東京ガス（株）

- 住戸に備え付けた人感センサーによる見守り
- 携帯ペンダント型の緊急通報ボタン



携帯型緊急通報装置
提供：アイホン（株）

元気な高齢者



心身機能の変化が
みられる高齢者

安全な暮らし



- 火災警報器、ガス漏れ警報器等による安心な暮らしの実現



無線式住宅用火災警報器
提供：ホーチキ（株）



スプリンクラー

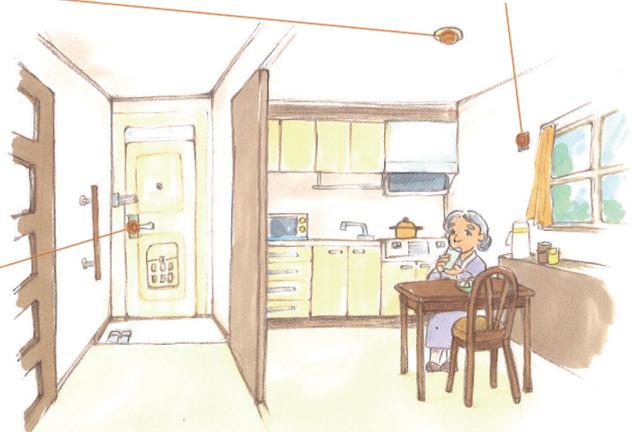


▲ ホームスプリンクラー
提供：能美防災（株）

住宅用火災・CO警報器
提供：新コスモス電機（株）



▲ 電気錠
提供：美和ロック（株）



アイホン株式会社

<http://www.aiphone.co.jp>

〒 456-8666 愛知県名古屋市中区熱田区神野町 2-18
☎ 052-682-6191 (代表)

◆インターホン工業会主催「インターホンオブザイヤー 2012」で「特別賞」を受賞しました。



■本冊子の関連品目・サービス
緊急通報装置

『緊急通報装置』は高齢者の万が一の異常発生を、電話回線を通じて離れて暮らす家族に知らせる通報機です。緊急時のみならず、相談ボタンを使って日常の安否確認もできるのでさらに安心です。

新コスモス電機株式会社

東日本支社

<http://www.new-cosmos.co.jp/>

〒 105-0013 東京都港区浜松町 2-6-2 浜松町 262 ビル 3F
☎ 03-5403-0511

■本冊子の関連品目・サービス
ガス警報器／住宅用火災・CO警報器

高齢者に判りやすい警報音声やランプを採用したガス警報器や火災警報器で、万が一の事故から家族の安全を守ります。特に住宅用火災・CO警報器はCOを検知して火災を早期に発見します。

東京ガス株式会社

ステーション24

<http://home.tokyo-gas.co.jp/mima/index.html>

〒 105-0022 東京都港区海岸 1-5-20
☎ 0120-117744

■本冊子の関連品目・サービス
ガス利用状況お知らせサービス『みまも〜』

『みまも〜』は、見守られる方が普段どおりガスを使った生活をしていただくだけで、前日のガスの使用状況が離れて暮らすご家族にメールでお知らせされる見守りをサポートするサービスです。

能美防災株式会社

<http://www.nohmi.co.jp/>

〒 102-8277 東京都千代田区九段南 4-7-3
☎ 03-3265-0211 (代表)

■本冊子の関連品目・サービス
ホームスプリンクラー

弊社の『ホームスプリンクラー』は、高齢者の皆さまを火災による災害から守るシステムです。火災の初期段階でお知らせする早期警報機能や音声によるメッセージなど、人に優しいシステムが特徴です。

パナソニック株式会社

エコソリューションズ社

<http://panasonic.co.jp/es/>

〒 571-8686 大阪府大阪府門真市大字門真 1048
☎ 06-6908-1131 (代表)

■本冊子の関連品目・サービス
住宅用火災警報器

住宅用火災警報器『けむり当番・ねつ当番 ワイヤレス連動型』は、万が一の火災発生を、家中に警報音とわかりやすい音声で、すばやくお知らせ。火災の早期発見により、高齢者の迅速な避難を促します。

ホーチキ株式会社

<http://www.hochiki.co.jp/>

〒 141-8660 東京都品川区上大崎 2-10-43
☎ 03-3444-4111 (代表)

■本冊子の関連品目・サービス
住宅用火災警報器

『無線式住宅用火災警報器』は、電池内蔵、グループ設定や、取り付けもかんたん。バックアップ通信機能を搭載、確かな技術で、より安全・安心をお届けします。

美和ロック株式会社

<http://www.miwa-lock.co.jp/>

〒 105-8510 東京都港区芝 3-1-12
☎ 03-4330-3069 (代表)

■本冊子の関連品目・サービス
電気錠

電気錠は、見守りサービスの端末機器として、利用者の扉開閉や解錠施錠などの操作を、見守り設備に電気信号で出力します。設備の機能により、解錠施錠を遠隔から行うことも可能になります。

発行・お問合せ先

一般財団法人ベターリビング
<http://www.cbl.or.jp>



サステナブル居住研究センター
〒 102-0071 東京都千代田区富士見 2-7-2
ステージビルディング 7F
TEL: 03-5211-0585

一般社団法人リビングアメニティ協会
<http://alianet.org>



〒 102-0071 東京都千代田区富士見 2-7-2
ステージビルディング 6F
TEL: 03-5211-0540